

## 【平成25年度 講演会のお知らせ】

皆様のご参加をお待ちしております。保育も準備致しておりますので、1歳以上の小さなお子様をお持ちの会員もお気軽にご参加下さい。

### 講演会（主催・お茶の水地理学会 共催 お茶の水学術事業会）

○講師及び題目：耳塚 寛明氏（みみづか ひろあき）

本学 理事・副学長（教授）

#### 「教育格差を考える」

1953年長野県松本市生まれ。1977年東京大学教育学部卒業、1981年東京大学大学院教育学研究科単位取得退学（教育学修士）。東京大学助手、国立教育研究所研究員を経て、1988年よりお茶の水女子大学。1998年に教授、2005年に文教育学部長(2007年まで)。2009年より理事・副学長（教育機構長）を務め、大学院人間発達科学専攻で教授を併任しています。

教育機構長の守備範囲は広く、教育はもちろん、学生・キャリア支援、入試、附属学校にまで及んでいます。国立大学法人化後の大学は、めまぐるしく変化する高等教育政策と、未曾有の社会変動の中で、「変身」を余儀なくされています。「女性の力を、もっと世界に」を実現する大学への変身が、課題です。専門は教育社会学で、日本教育社会学会会長を2007年から2011年まで務めました。教育社会学というのは、教育現象を社会的に解明する人間科学の一領域です。私は、院生時代からずっと学校教育、教育政策を実証的に分析する仕事に従事してきました。とくに21世紀に入ってから、本学で、21世紀COEプログラム「誕生から死までの人間発達科学」（拠点リーダー内田伸子）、グローバルCOEプログラム「格差センシティブな人間発達科学の創成」（拠点リーダー耳塚）に参加する機会を得、学力格差に焦点づけた研究を進めることができました。

○講師より会員の皆様へ：現代社会は業績に応じて富や地位が配分されることを正当だと認める社会です。競争の結果として富や地位の格差が生まれるのは当然の帰結に過ぎません。競争が公平な条件のもとで行われている（と人々が信じる）限り、結果としての不平等は受け入れるほかありません。生まれ育った家庭の文化的環境や所得の多寡によって生じている、子どもの学力格差はどうでしょうか。子どもの学力格差が問題視されねばならないのは、だれにでも機会が開かれた競争という業績主義社会を支える公正前提が、学力格差の存在によって突き崩されてしまうからです。子どもの学力格差の存在は、富や文化の格差が子世代へと再生産され、人生のスタートラインにおいて機会が平等に開かれているわけではないことを端的に示すからです。

当日は、子どもたちの学力格差の実態をまずは見ていただき、それが生まれるメカニズムを整理し、私たちになにができるのかを考えたいと思います。

○日時：平成24年12月7日（土） 午後2時～4時

○場所：お茶の水女子大学 本館 306 正門からお入りください。